

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 21 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520289

研究課題名(和文) スティグマの切離・逸脱者の正常化：米国社会と文学に見る「奇形の男性性」表象

研究課題名(英文) Removing Stigmas/Normalizing Deviants: Consideration of Dysfunctional Manhood in American Literatures

研究代表者

久保 拓也 (Kubo, Takuya)

金沢大学・学校教育系・准教授

研究者番号：80303246

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は現地での資料収集と、国内外における学会での研究発表、およびその成果の論文での発表が中心となった。「障害学」という新たな観点を取り入れ、いわゆる「マイノリティ」と表現される人々が、文学作品において特徴的に表象されてきたかを扱う研究を推進し、その成果を発表した。文学作品に多く現れる「奇形の男性性」を持つ人物たちの背景には、「成功」にとりつかれたアメリカ社会が「失敗者」として切り捨ててきた多くの男たちの存在がある。様々な事情と状況から社会の基準から逸脱せざるを得なかった者たちと、それを表した文学作品の重要性と意義を明らかにすることを目的とした

研究成果の概要(英文)：This research puts focus on representations of what is called "minority" in literary works by introducing the knowledge and the viewpoints from a recent developing academic field, Disability Studies, on top of those which Masculinities Studies has produced. Behind the men with "deformed" masculinities lie the facts that American society, which has been obsessed with the dreams of success, has discarded those people as failures. This research aims to see those who cannot meet the criteria the American society has applied for their progress, and their representations in the literary works produced during the late 19th and the early 20th century.

研究分野：英語圏文学

キーワード：アメリカ文学 男性性研究 障害学研究 マーク・トウェイン研究 「失敗」の研究

1. 研究開始当初の背景

本研究は平成 19-22 年度科研費交付研究：「米国社会と文学が歴史化する『男らしさ』：『戦争後』を生きる『奇形の男性像』研究」で得られた知見を、より深化・発展させる事を意図したものである。この研究は米国社会が経験した数々の戦争により産み出された「奇形の男らしさ」を持つ男性たちの苦難を、特にトウエインの諸作品の中に見出して論じた。

研究代表者は前研究の重要な成果を、平成 21 年 8 月 6-8 日にかけて米国ニューヨーク州エルマイラ大学で開催された第 6 回マーク・トウエイン研究国際学会において発表し、米国を中心とする研究者からの高い評価を得た。発表論文は発表終了直後に、米国のトウエイン研究専門誌 (*The Mark Twain Annual*) への投稿をもとめられて 2010 年 (平成 22 年) 号に掲載されている。文学研究におけるジェンダー学からの観点は、伝統的に女性の所有物であった。だが申請者の研究が、「男性というジェンダー」の「新しい」視線が提起しうる問題に、再び注目を集めたことの意味は重要であったと考えている。

本研究へと継続・発展するこの研究は「戦争」を挟み激変したアメリカ社会が産出した文学作品に着目し、その中で翻弄され、ついに自己達成を妨げられた男性像を扱ってきた。あくまで「個人の男性」という人間主体が経験してきた「苦難と喜び」を中心とし、その視点から米国の文学・歴史を見つめることで得られる研究成果を「脱境界化しつつある現代社会」における男性問題へ普遍的な対処法としても活用することをも目標としている。本研究は、この研究を大きく発展させ、前研究から得られた成果に「身体論」及び「国家身体論」からの観点を加えることによって、有効性の範囲を広げ、同時に精度を大きく高めることを計画した。

2. 研究の目的

本研究は、「男性性」を巡る最重要事象といえる、「戦争」を挟む時期に産出されたアメリカ文学作品における「男性の肉体表象と国家像」を中心に論じていく。これにより現在の交付研究との緊密な関連性を保つと同時に、「身体論」及び「国家身体論」の観点から精査を加えることになり、有効性の範囲を広げると同時に理論の精度を大きく高める。

アメリカという国家が成立に至るまでの歴史が、自身の構成要素である国民、とりわけ「男性個人の肉体性を巡る歴史」の中にいかに再現され続けているかを精査・検証することを通じ、理論の精密化とその適用範囲の飛躍的な拡大を計画するものであった。

3. 研究の方法

本研究は、広範な資料収集とその精査、そこから得られる知見を用いての新たなテキスト解釈とその社会への還元を大きな柱として行われた。

全体の期間を通して、海外での資料収集と研究発表を最重要な活動と位置付け、これらを積極的に行うこととした。資料収集はカリフォルニア大学バークレー校に設置されている図書館群のうち、パンクロフト図書館やその附属施設であるマーク・トウエイン・プロジェクトを訪れ、集中的な作業を行った。

研究は「奇形の男性像」を産出するアメリカ社会と文学のマクロ的な視点と、その中に生きる個人に対するミクロ的な視点を意識して始まったが、その視点はやがて「障害」を文化として受容する文化の発生を捉えた学問の「障害学」の援用、その学問的視点が明らかにする様々な「逸脱者」の存在の研究へと具体的に展開させることができた。またこの「逸脱者」への視線は、文学作品における様々な「失敗」を考察する視点へとつながり、現在に至っている。

この研究で特徴的なのは上記のミクロ的な視点の具体的な展開方法として、一人の人物の手紙を時系列に読み、そのデジタル資料化を行っていることだろう。マーク・トウエインの兄オリオン・クレメンズの手紙は上記マーク・トウエイン・プロジェクトに大量に保管されているが、その資料を閲覧すると同時に資料化のために全て入力するという時間を必要とする作業に従事し続けている。この資料はまだ完成していないので研究成果に盛り込むことが出来ないが、やがてその翻訳や研究、およびインターネット上のデータベースの形で公刊することを計画している。

4. 研究成果

研究初年度の平成 23 年は、国内における資料収集と、その精査を行うこととなった。またその成果に基づいて日本国内の学会で、米国作家マーク・トウエインの作品に現れる少年たちのジェンダー表象と身体性の関係について研究発表を行った。

平成 24 年度は研究を発展させた成果を持って二つの研究発表をおこない、その中ではトウエイン作品などにおける種々の「障害」の諸相を取り上げた。現在一つの文化研究として発展する「障害学」の観点をいち早く取り入れ、社会の「規範(norm)」から様々な状況のもとで逸脱せざるを得ない人々の様子が、トウエインの最初期から現れていたという事実の提示を通じて、「逸脱者」とは何か、またその重要性はどこにあるのか、という問題への関心を引き起こすことを目指した。この成果は当年度に研究論文として発表することが出来た。

平成 25、26 年度はこの方向からの研究を

継続・発展させることが出来た。平成 25 年度は米国での研究発表を二度行うこととなったが、そのうち一つ、米国ニューヨーク州エルマイラにおいて開催された第 7 回国際マーク・トゥェイン学会においては「障害」と「ジェンダー」文学作品における表象のされ方について、トゥェインの、現在あまり振り返られることのない初期短編の中に読む試みを行い、多くの議論の対象となった。また米国カリフォルニア州バークレーで開催された西部文学学会大会における二つ目の発表では、作家における様々な「失敗」をテーマとして、「障害」のモチーフが重層的な意味を持って利用されている未出版のトゥェイン作品を読み直すことで、作家にとっての作品の重要性の再検討を行うこととなった。後者の論考は日本マーク・トゥェイン協会が発行している英文雑誌に、平成 26 年度に収録されることとなった。

また、この際に取り扱ったテキスト(『間抜けのウィルソン』モーガン版)は、成立に複雑な問題のあるもので、作家本人以外の誰もがと失敗作としながらも、多数の変更と改稿を経て出版されることとなったものである。だが本研究代表者はこの作品の原形の種類のテキストを時間をかけて閲覧し、その変遷を丁寧にたどることができた。その中に含まれていた重要な要素を取り上げることで、「失敗」とされている作品の中には、作者を理解するための鍵が、いわゆる「成功作」として世に知られる作品と同様、あるいはそれ以上に含まれるということに注目を引くことができた。この作品は未だに完全な形で読むことが出来ないもので、翻訳し出版することを意図している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

1. KUBO, Takuya, “Understanding Brilliant ‘Failures’: Reconsideration of Mark Twain’s Unpublished Manuscripts.” *Mark Twain Studies*, Vol. 3 (2014), 40-51. 査読無し

2. 久保 拓也 「『子ども』と『障害』から考えるマーク・トゥェイン」 『マーク・トゥェイン: 研究と批評』第 12 号, 2013 年, 36-43. 査読無し

[学会発表](計 5 件)

1. 久保 拓也 「マーク・トゥェインと失敗」

第 31 回アメリカ文学会中部支部大会、
2014 年 4 月 20 日、中京大学

2. Kubo, Takuya. “Understanding ‘Brilliant’ Failures: Reconsideration of Mark Twain’s Unpublished Manuscripts.” The 48th Annual Western Literature Association Conference, Double Tree by Hilton (米国カリフォルニア州バークレー), 2013 年 10 月

3. Kubo, Takuya. “‘Dysfunctioned’ Manhood in ‘Impaired’ Bodies: Mark Twain’s Treatment of Deviations.” The Seventh International Conference on the State of Mark Twain Studies, Elmira College (米国ニューヨーク州エルマイラ), 2013 年 8 月

4. 久保 拓也 「『子ども』と『障害』から見るマーク・トゥェイン」日本マーク・トゥェイン協会第 16 回年次大会シンポジウム、2012 年 10 月、慶應義塾大学(東京)

5. 久保 拓也 「トゥェイン作品における少年のジェンダー表象」金沢大学大学院ジェンダープログラム開設記念シンポジウム:「児童文学とジェンダー」2012 年 3 月、金沢大学(石川県・金沢市)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]
出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:

出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久保 拓也 (Kubo, Takuya)
金沢大学・学校教育系・准教授
研究者番号：80303246

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：